

三頭政治をへて誕生した帝政ローマ



共和政ローマの混乱は2回の三頭政治をへてオクタヴィアヌスを初代ローマ皇帝に導いた。

国内不安で揺らぐ共和政から共同統治の「三頭政治」へ

前2世紀、地中海各地を属州に治めたローマだったが、次第に内政は悪化していった。戦争で荒れた農地を買い集め、属州から流れ込んだ奴隷労働力を使役するラティフンディア(大所領)が生まれる一方で、属州からの安価な穀物が輸入される中、中小農民が没落、無産市民化し、彼らが担っていた重装歩兵は解体されて傭兵制となっていた。ローマの共和政が危機に瀕したのである。

グラックス兄弟による土地再配分などの改革も、元老院の妨害にあつて頓挫し、あくまで元老院を守るうとする閥族派と平民会を根拠とする平民派が対立した。また剣闘士奴隷スパルタクスの蜂起や属州の奴隷反乱も相次いで、約1世紀の間、ローマは内乱状態となった。

権力闘争が続くなか、前60年、東方を平定した将軍ポンペイウスと平民派カエサル、大富豪クラッススが密約を結び、元老院と対立する三頭政治を開始した。

アクティウムの海戦で勝利 オクタヴィアヌスの帝政開始

しかし、クラッススの死後、三頭政治は崩れ、前46年、ガリアを治めて勢いについたカエサルが元老院と結んだポンペイウス

との戦いに勝利して独裁者となった。カエサルは、貧民救済や植民事業、太陽暦(ユリウス暦)の採用などさまざまな改革を行ったが、共和政信奉派のブルートゥスらによって前44年に暗殺された。カエサル暗殺後の混乱を収集したのは、カエサルの養子オクタヴィアヌス、カエサルの武将アントニウス、レピドゥスによる第2回三頭政治だった。東方の統治にあたったアントニウスがエジプトのクレオパトラと結び、ローマの分断を計ったためにオクタヴィアヌスと対立、前31年のアクティウムの海戦へといたった。これに敗れたアントニウスとクレオパトラは翌年に自殺し、エジプト王国は滅亡。勝利したオクタヴィアヌスは前27年、元老院からアウグストゥス(尊厳者)の称号を贈られ、事実上の皇帝となり、ここにローマの帝政が誕生した。

エジプト存続を賭けたクレオパトラの結婚

その美貌で有名なエジプトの女王クレオパトラ。最初の結婚は、17歳のとき、9歳の弟プトレマイオス13世とだ。これはエジプト共同統治のための政略結婚で、2人はすぐに党派に分かれて争い合った。そこにやってきたのがローマのカエサル。彼女はカエサルと密会するや、夫をナイル川で溺死させてしまった。次には、5歳の弟プトレマイオス14世と結婚した。裏ではカエサルとの情事を重ね、カエサルとオンを産んでいる。カエサルの死後、実子カエサルオンをその後継にできないとわかるや、今度はアントニウスと愛を交わし、オクタヴィアヌスに対抗。そしてアクティウムの海戦に敗れ、最後は毒蛇に身を咬ませて死んだといわれている。

カエサルの暗殺

「ブルートゥス、お前もか!」シェークスピアの台詞で有名なカエサル暗殺事件。独裁官となったカエサルに権力が集中し、共和政崩壊の危機感を持った共和政信奉派が暗殺を実行した。ブルートゥスたち共和政信奉派はその後の政争に破れ、マケドニアに逃走するが、オクタヴィアヌスとアントニウスの連合軍に敗れた。